

小泊石山地図

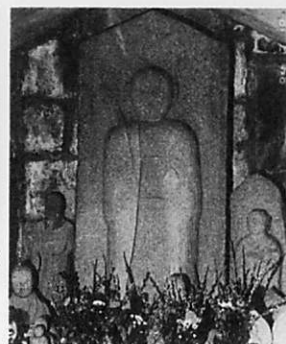
昔から小泊は石臼、椿尾は地藏さんといわれ、石もそれぞれ違うとされた。椿尾石はゴマ塩状。小泊石はゴマがなくて硬く、石臼や石塔、敷石などに使われた。

元、羽茂高校にいた神蔵勝明先生が、どちらも同じ「真珠岩質石英安山岩だ」と言い出してから、それが定説になった。火山活動で出たとき、混じり具合が違うだけだという。

小泊にも椿尾にも、石山がいくつもあつた。特に小泊には大沢、ナカナギ、焼舟、切石など石山が多く、石質もいろいろで、製品も多い。半兵衛丁場などのように椿尾石が取れ、地藏さんの作られた山もある。



トッコ沢石祠
大きな祠で、棟には阿吽の人間の顔が乗せてある。



妙福地藏
赤味のある石で、半肉彫りで珍しい。



地藏沢の原石
大きな石に、割るための矢穴が掘られ、そのまま転がっている。

十五、赤みのある石と伝説

赤みのある小泊石の作品もある。同じ相川の大安寺の参道脇の妙福地藏が一つ、もう一つは、やはり蓮華峰寺の独鈷沢の石の祠がそつだ。

地藏の作製年号はないが、寺の関係から寛永十年といわれ、祠には元和八年、亀之脇村笠井甚左衛門の文字がある。

この二つの石造物に共通する赤みのある石の原石は、海岸近い地藏沢とムジナ尻に割られたまま、ころがっている。このことは、「権三郎は石を探して海岸から上がった」という伝説と符合する。そしてまた、年号のない古い稚拙な石仏などにも見られる。

十六、小泊石と椿尾石